

大学生の視点による湯田温泉地区のアメニティについて

福田隆眞・作花美穂*・浅尾ひろ子*・朝田章子*・小田喜久枝*・岸本真理子*
・小林 愛*・三浦ひろこ*・酒井 藍**

On the Amenity of Yuda-onsen Area by the Viewpoint of Yamaguchi University Students

FUKUDA Takamasa, SAKKA Miho, ASAO Hiroko, ASADA Akiko, ODA Kikue,
KISHIMOTO Mariko, KOBAYASHI Ai, MIURA Hiroko and SAKAI Ai

(Received September 30, 2011)

はじめに

平成23年10月に、山口市を含む山口県各地で行われる、第66回国民体育大会が開催される。そのため、会場の1つである山口市もそれに向けての環境整備が進められてきた。特に湯田温泉の地区は競技場にも近く、整備が進められてきた地域であると思われる。

湯田温泉地区は古くから山口県の観光地として存立しており、近年、環境行政の促進が図られてきた。そこで、観光者の立場からではなく、住民の立場からその快適さを調査する必要があると思われる。

本稿は平成23年度前期開設のデザインⅣの受講生による、湯田温泉地区のアメニティについて、学生生活の観点からこの地区の問題を取り上げ、検討を試みるものである。受講生8名は全員女子学生であり、学生が湯田温泉にどのように関わり、またどのように利用しているかの過程において気付いたデザインの問題を取り上げ分析する。その対象としては、湯田温泉駅、道路、看板、高田公園、トイレなどの公共施設などである。調査時期は平成23年6～7月である。

1. 学生の湯田温泉地区への関わり

学生生活において湯田温泉は利用頻度の高い地域である。一般的に学生が湯田温泉と関わる場合は、以下のようなことが挙げられる。

- ・通学、帰省等による湯田温泉駅やバスなどの交通機関の利用。
- ・アルバイトとしてのホテル、旅館、飲食店などとの関わり。
- ・余暇の利用としてゲームセンター、ボウリング、カラオケ、飲食店などの利用。
- ・日常的な買い物として、コンビニ、薬局、書店などの利用。
- ・移動のための道すがら通る地区としての関わり。
- ・温泉街の特徴の一つである足湯の利用。
- ・自動車学校、郵便局、銀行などの日常生活に必要な公共機関の利用。
- ・白狐まつりなどの湯田温泉の祭事に参加することでの関わり。

*山口大学教育学部美術教育選修

**山口大学大学院教育学研究科修士課程美術教育専修

2. 湯田温泉地区の印象と問題

上記のような学生の日常的な関わりの中で、実感としては以下のようなことが言える。

(1) 全体的印象

湯田温泉は旅館や飲食店が多くある。学生自身が旅館を利用する機会は少ないが、飲食店を利用することは多々あると思われる。飲食店も大小様々な店があったり、店によって雰囲気や料理の種類が違ったりするため、個人の利用や部活、サークルなどの大人数での利用といった目的や相手にあわせての店選びが可能である。

飲食店の近隣にカラオケ店があり、ボウリング場やゲームセンターなどといった遊戯施設もある。また、病院や美容院なども点在しているので日常生活において、利便性の高い部分もある。また、こうした店を利用するだけでなく、アルバイトの場としても湯田温泉に関わる学生は多い。

学生にとって自転車は欠かせない交通手段であるが、湯田温泉街には自転車を止められるスペースが少ない。小さな居酒屋などの前に自転車を置いてしまうと、邪魔にならないように気を付けても歩行者の妨げになってしまう。かといって、湯田温泉駅の駐輪スペースに置くと、数人の利用なら良いがサークルや部活などの団体の場合は、駅を利用する人の邪魔になってしまう。駅を定期的に利用する人用の自転車置き場と、ちょっとした時に止める自転車置き場があっても良いのではないかと思う。

温泉が有名である湯田温泉だが、高田公園に足湯があるためそこを利用したことがある人は多いであろうが、全身を湯につけたことがある人は少ないと思う。足湯は湯田温泉街に4か所あるが、高田公園以外の場所を知っている人は少ないのではないか。せっかくの温泉の街なので観光客だけでなく、学生にも気軽に利用できるような機会があってもよいかもしれない。

湯田温泉街には、縁のある詩人の作品や白狐をモチーフにした置物やマンホールがいたるところにある。また、昭和時代の面影が垣間見えたりする光景も見られる。ただ、一部の道路だけ茶色にしてある等の中途半端な印象を受けるので、もう少し湯田温泉の雰囲気、味わいが伝わるような景観や道路にすれば、全体的なまとまったイメージを抱くことができると思われる。

(2) 看板について

湯田温泉街の大通りの道路標識や看板は、大きく簡潔なものが多く、概ね認識しやすいものである。初めて湯田温泉に来る人にも分かりやすい。さらに利便性を高めるには、大通りの一角に観光案内の大きな看板が設置されることが望ましい。

湯田温泉駅から高田公園付近の看板は、道幅が狭いせいもあるが、見えにくい看板が多い。車道まで下がらないと全体が見えない大きな看板や、重なって何を書いているのかわからない看板、どこを指しているのかわからない看板等、立地を考えるべき看板が見られた。

湯田温泉街全体を通して、樹木の成長により、見えなくなっている看板が数か所存在している。定期的な保守や点検が必要であろう。また、木製の看板や足湯の看板等は風情があり、観光客にとっても住民にとって好感がもてる工夫がなされている。そのことにより、歴史のある街並みを象徴しているように感じられる。

(3) 湯田温泉駅周辺について

調査時点では駅周辺の改修を行っていたので、現状調査よりも、利用者としての学生の意見

として、以下のような提案をする。

・地域に密着した駅作り：例えば湯田温泉街の発展のために、観光客や外来者に湯田温泉の特色や見どころが書かれているパンフレットや案内版などの設置をする。利用者に学生が多いため、駐輪場を広くしたり、身体障害者のためにもバリアフリーを行ったりする。このようなことで、地域住民も含めて、駅のスムーズな利用をすることができるのではないかと思う。

(4) 高田公園及びトイレについて

湯田温泉街の中心に高田公園がある。この公園では、街灯の設置や車道と歩道の分離など、安全面において整備されている。また、遊具がユウタ君（湯田温泉のキャラクター）をモチーフにデザインされていたり、池があったり、景観にも心配りができている。しかし、注意書きの看板がいたるところにあり、その内容も重複している部分もあるので、そこは再度見直すべきである。

高田公園内にトイレが設置されている。通気性の良い造りになっており、天井・壁が開放的である。トイレに時計が設置されていたが、通りからは位置的に見えにくい。ゴミ置き場がトイレの裏側部分（公園からよく見える場所）にあり、市民にとってはゴミを集めるのにちょうどよい場所なのかもしれないが、公園の景観は少々損なわれているように思われる。手すりや段差がないなどバリアフリーには配慮してある。清掃はきちんとしてあり、トイレトーパーもあって地域住民や観光客に親切なトイレだと思う（このトイレの清掃は市がシルバー人材センターに業務を委託しているとのこと）。

3. 調査対象とコメント

前述の調査対象を図版で示し、簡略なコメントを述べる。

湯田温泉駅周辺



駐車場横に自転車がおかれ、車はその横に入ると出ることができない状態となっている。



スロープが通行の邪魔になっている。



湯田温泉についてのパンフレットがあまり置かれていない。



売店、駅ともに閉まるのが早い。



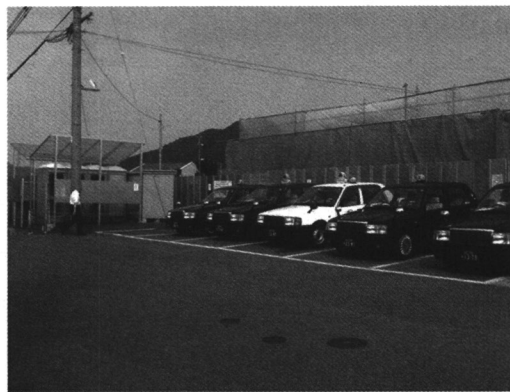
電車の本数が少なく不便である。



ここに湯田温泉の大きい案内地図があるほうがよい。



曲がり角が危ない。カーブミラーがない。



駐車場がせまい。



駐輪場に入りきらず道路にはみ出していたり通路の邪魔になっていたりすることがある。駐輪場を整備する人が仮設駐輪場の前の駐輪場ではいたが、今回も必要なのではないか。

高田公園内トイレ周辺



タイル張りで装飾性に富んでいる。



手すりがあり、バリアフリーに配慮してあるが、照明が暗い。



トイレの裏がゴミの収集場所になっており、汚く見えてしまう。

高田公園



遊具も完備されていて、十分な広さがある。



公園の遊具。地元のマスコットを生かして統一している。



カラーで分かりやすく、子どもも親しみやすい。



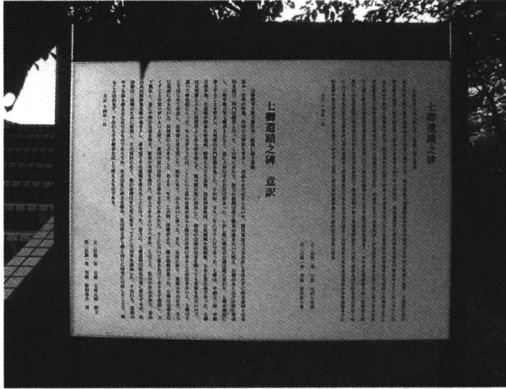
気軽に無料で足湯に入れるのは嬉しい。温泉街らしさがある。



英語で書かれており、外国人の観光客に優しい。効能も英語があるとより親切ではないか。字が小さいのも気になる。



タバコのポイ捨てが減る、喫煙マナーが守られる。しかし、すぐに煙草の燃えカス入れということが分からない。また喫煙所の案内がない。



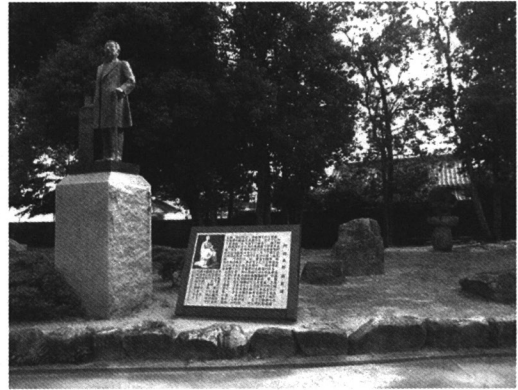
文字が小さくて読み難い。



あまり目立たないところにある。



このような細かい指示の看板が公園内にくくつもあるので、いちいち確認しなければならない。



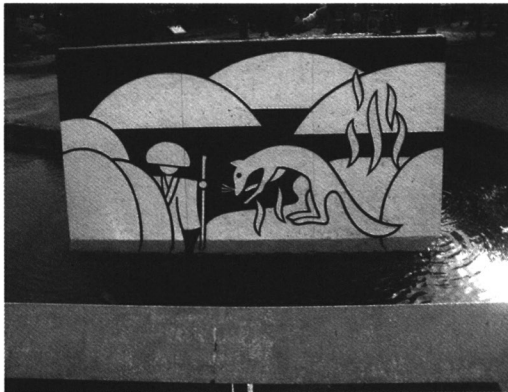
石碑の文字が小さく読みづらい。



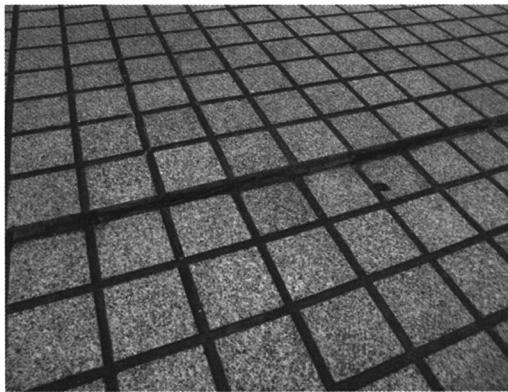
地域の歴史について知ることができる。



木の陰に隠れていて、あまり目立たない。



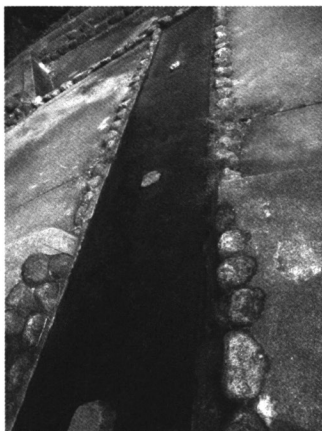
ブラックライトで色が変わる仕組みになっているのはオシャレでいい。
2種類の絵があり楽しめる。



地面のタイルに少し段差があって危ない。



池の中には鯉もいて、とてもよい雰囲気である。公園の奥の方にあるので、気づき難い。



水がとても綺麗で、小さい子どもも遊ぶことができる。



街灯がきちんと設置されている。お年寄りが多いので、ベンチがあると助かると思う。歩道も車道ときちんと分けられていて安全である。

看板



湯田温泉外への看板だが、矢印がどこを指しているのか分かり難い。



狭い道の横にあり、止まって見るには大きすぎる。この道は、道幅の割には交通量が多い。



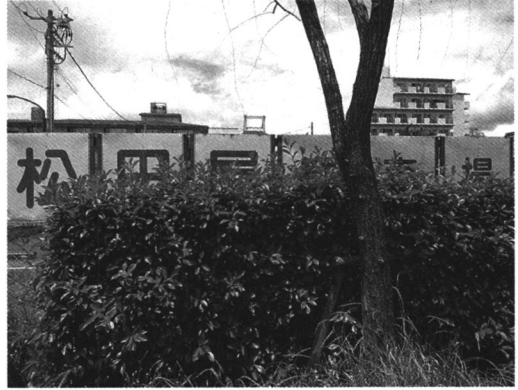
看板が、注意の文字に重なっていて見えない。



トイレの「いつもきれいに使っていたいただきありがとうございます。」を思い出させる看板であった。



亀福駐車場：色が地味で、文字も小さく分かり難い。



完全に看板が木に隠れている。



隣の地図は、大きく見やすくとてもよかったが、人通りが少ない所なので、設置場所に工夫が必要である。



湯田温泉街に点々とある看板で道に飛び出っていて、大きく、どこからでも見られるので、分かりやすい。



色合いは落ち着いておりとても良いが、注意喚起には向かない気がした。



足湯の看板。ゆっくり見ることができ、わかりやすいのでとても良い。



看板が草にかぶってよく見えなくなっていた。隣には人工池のようなものがあり、鯉等が泳いでいた。休憩スペースのようだが、利用者はいない。



由来やその歴史をところどころに点在させることにより、地域学習にもなる。看板自体はとても良かったが、蛍光灯がずっと点灯している。



風情のある良い看板だが文字が掠れている。



足湯の看板はとても風情有あり、とても良かった。



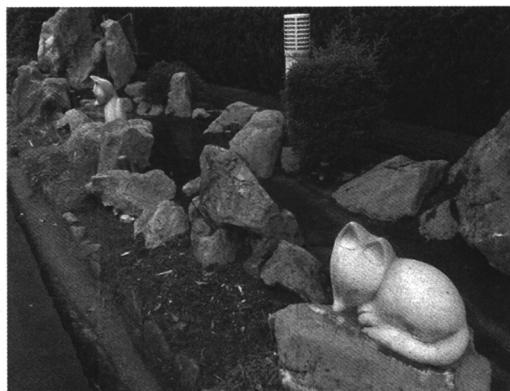
縁ある詩人の詩を往来で読めるのは良い。



よくわからないスペースがあった。石が置いてあり、あまりきれいとはいいがたい。何か他のものを展示した方が良いと考える。



銀行等公共のものではないが、山口を取り入れたデザイン等がされており、美しい。



湯田温泉の象徴である白きつねの像があると道路が賑わうし、良い景観となる。



ゆかりある詩人の名前から通りの名前をつけるところが覚えやすく宣伝にもなる。



注意を促す看板が建物に隠れていて、見えにくくなっている。

市街地



高田公園周辺、観光コース案内図付近。
交通量が多い場所であるのに道が狭く、対向車と鉢合わせになった車が止まってしまっている様子をよく見かける。



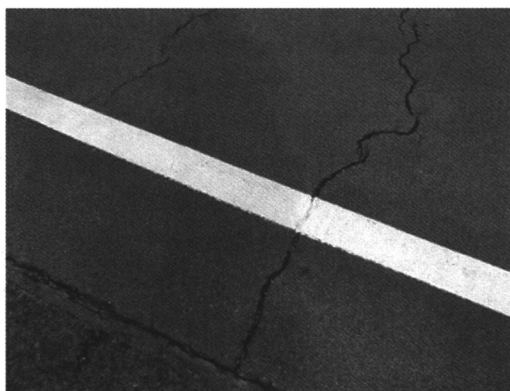
歩行者のための路側帯も狭く、歩行者にとって、危険な場所となっている。草木が歩行の邪魔になっている場所もある。



亀福の隣の道路は車道・歩道ともに狭く、建物の角が死角になり曲がってくる車両が見えず、大変危険である。



ここでは、電信柱が完全に歩行者の妨げになってしまっている。



大通りの裏にある道にて。ひび割れが段差になっている。歩行者が躓いてしまう。



大通りからはずれると電灯が少なくなる。夜は暗くなり危険である。



歩道橋の手すりが錆びついている。



歩行者の道幅が広く歩きやすい。



歩道橋の階段も古く、剥がれている。



歩道には所々にベンチがあり、休めるようになっている。



湯田温泉の大通りにある歩道橋付近。
歩道が狭く、自転車が通るときには危険である。



山口湯田郵便局。
駐車・駐輪のスペースが狭い。

4. まとめ

本稿での調査は街の景観の総合的な調査ではなく、学生が日常的に利用する街並みの、点的な調査である。都市景観の調査における要素には、街並み、ストリートファニチュア、屋外広告物、移動物、緑、水辺、眺望などがあげられるが、¹⁾ 本調査では、総合的な景観ではなく、ストリートファニチュア、看板、公園、トイレといった利用することを対象とした。しかもそれらの評価は、新田が言うように主観的な美的価値判断ではなく、市民アンケートから得られた、自然の豊かな、清潔な、すっきりした景観²⁾ のように総合的印象的基準で行った。

高田公園についても景観調査ではなく、住民の利用者としての立場で問題点を調査した。公園について、趙英玉他は地域の利用されていない公園に対して、地域住民の憩いやコミュニティ形成の場として再設計される必要を述べている。³⁾ そこで、本調査では、すでに出来上がっている公園の利用についての問題点の発見という観点で実施した。

湯田温泉街には足湯のような簡便な温泉施設やホテル・旅館の温泉施設がある。ホテル・旅館は外来者、観光客が主に利用し、地域の住民の宿泊の利用は殆どない。地域住民の観点では、ホテル等の建築物の景観よりも、日常的な足湯、歴史的記念碑、道路、看板などが生活意識の対象物となっている。住みやすさという観点からの調査では、景観よりも生活の対象物が意識され、それらの問題発見から改善策を検討することが出発点となる。今回の調査では、問題点の発見と評価、部分的な改善策の検討にとどまり、改善案の提示までは出来なかった。しかし、景観やアメニティの調査の出発点には、地域住民の生活意識が基本となると考えられる。

謝辞

本稿を作成するに当たり、調査の段階において以下の方々のご協力を得ました。感謝の意を表します。

- ・ 山口市役所観光課
- ・ 山口市湯田温泉観光案内所
- ・ 山口市湯田温泉旅館組合

注

- 1 新田伸三 「都市景観要素の調査と評価」 造園雑誌46 (3) 1983年 p209
- 2 前掲1 p210
- 3 趙英玉 他 「都市公園における景観デザインの一試案」 日本デザイン学会 デザイン学研究 2001年 p362

参考文献

- ・ 塩田洋三 他 「地方都市における市街地景観に関する研究 I—景観調査票の分析結果—」 日本建築学会大会学術講演梗概集 1994年9月
- ・ 渡辺勇太 他 「新宿区を対象とした景観調査および景観まちづくり計画・ガイドブック策定取り組み」 日本建築学会技術報告集 第15巻 第29号、2009年2月